
第2章

観光振興の基本理念と 基本方向



第2章 観光振興の基本理念と基本方向

(1) 観光振興の基本理念

第五次鳴門市総合計画は「交流と協創」を基本理念とし、「いきいき 未来に輝く 交流拠点都市 なんと」を将来都市像としている。

鳴門は、いにしえの頃より、四国と畿内を結ぶ交通の要衝として人やものの交流が行われてきた地域である。古墳群をつなぐ古代王権の道、大化の改新時の官道として開かれた南海道、そして近世の撫養街道や遍路道など、鳴門は道を通じて人と人を結び、地域と地域を結び、人やものの交流を育み発展してきたまちである。

景勝地観光が盛んになるなかで鳴門の渦潮は脚光を浴び、今では「鳴門と言えば渦潮」と言われるほど全国的に有名な観光地になった。この過程で鳴門の観光は渦潮のみがクローズアップされ、その他の多くの魅力的な資源は十分に活かされないままになっている。このため、今後の鳴門市観光は、新たな観光施設の建設などのハード整備ではなく、知名度の高い渦潮を核としながら市内にある魅力的な資源を活かし、これらをつなぐことにより、本来鳴門市観光が持っている多様なポテンシャルを最大限に発揮させることが重要となってくる。

その際に、鳴門は常に人やもの、情報・文化などを受け入れ、新たなものを生み出す交流のまちとして発展してきたという歴史性を踏まえて、ただ単に外からの観光客を呼び込むのではなく、交流を通じて、訪れる人にとって魅力的であり、鳴門に住む人にとっても地域に自信と誇りを持つことができる観光・交流のまちづくりをめざしていく必要がある。そのためには、観光関連事業者や行政だけではなく、市民がいろいろな場面で観光・交流に関わり、市民の思いや活動がまちづくりに活かされて行くことが求められる。

こうした考え方をもとに、市民ぐるみで取り組む活気あふれる状態を、鳴門の象徴である渦潮の力強さになぞらえて、観光振興の基本理念を以下のとおり表現する。

<鳴門市観光振興の基本理念案>

渦巻く市民力が創る 観光・交流都市「なんと」

(2) 観光振興の基本的考え方

第 1 章であげた、現在の鳴門市観光の課題やポテンシャルを踏まえ、前述の基本理念に基づき、次のような基本的考え方をもって今後の鳴門市の観光振興を推進するものとする。

テーマ 1: 鳴門にしかない“本物”の魅力を活かす

渦潮やウチノ海をはじめとする美しい海などの自然景観、ベートーヴェン第九交響曲の日本初演の地、鳴門板野古墳群など太古から連なる悠久の歴史文化、阿波踊りに代表される世代を超え受け継がれてきた生活文化、新鮮で豊富な食材など、それぞれの資源の質の高さを“本物”のトップブランドとして育成、アピールし、訪れる人に癒しと感動を与える観光地づくりをめざす。

テーマ 2: 「新たな見せ方・結びつけ」の工夫を行う

生活路線である小鳴門海峡の渡船や、さつまいも畑の緑、ハスの花咲くレンコン畑といったのどかな田園風景など、鳴門の日常を、都会の人々の自然回帰や原風景へのあこがれを満たす観光資源として新たに演出し、鳴門への対流（滞留）拡大をめざす。また、大谷焼の里や西部地域にある寺社、文化財などの歴史文化資源をストーリー性を持たせて結びつけるなど、これまでとは違った新たな見せ方、魅力を創出する。

テーマ 3: 地域力・市民力で観光・交流を盛り上げる

これからの鳴門市観光は、市民一人ひとりが鳴門の良さを改めて感じ、誇りを持つようになることで、地域ごとの特色を活かした活動に積極的に参加し、訪れた人とふれあいながら鳴門の魅力を伝え、市全体で観光・交流を盛り上げていくまちづくりをめざす。

テーマ 4: 鳴門を売り出す手段を工夫する（情報発信・受け入れ態勢の整備）

物語性のある観光地の紹介など、「本物」の観光資源に関する情報発信力の向上や工夫を行うとともに、地元住民からの穴場情報、専門性の高い情報など一步踏み込み、「こだわり」を持った人々の心を動かす情報発信拠点をめざす。

また、市民による案内や交通アクセスの向上、ホテル・飲食店等での接遇力の向上など、訪問者に快適な環境を提供できる受け入れ側の機能を充実させる。

鳴門市の観光振興を進めるうえでのキーワード

鳴門は、古来より、人、もの、文化などが行き来する交流拠点として、異なる人や地域の価値観をつなぎ、融合し、新たな価値を生み出し発展してきたまちである。このため、前述の基本的な考え方を踏まえて鳴門市の観光振興を進めるうえでは、鳴門市の歴史的特性を生かして、「つなぐ」をキーワードとして、資源と人、人と人、地域と人、地域と地域をつないでいくことが重要である。

鳴門市の観光振興を進めるうえでのキーワード「つなぐ」

資源と人をつなぐ

鳴門市民が市内にある観光資源の魅力を知るとともに、市民が誇れる観光資源へとブランド化を進める。訪れる人に対しては、渦潮だけではなく、たくさんの魅力的な資源との出会いの機会を増やす。

人と人をつなぐ

鳴門の人同士が観光・交流に向けてつながり、市民、観光関連事業者、市がみんなで見守る観光・交流のまちづくりを進め、訪れる人を受け入れる態勢を整える。

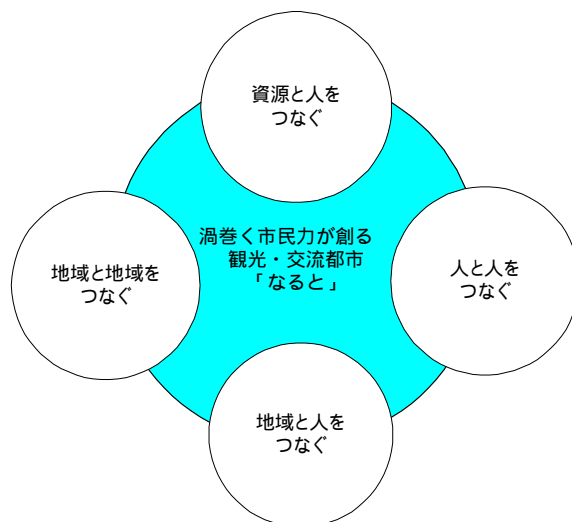
地域と人をつなぐ

市民一人ひとりが知っている地域の魅力を観光・交流のまちづくりに活かすとともに、訪れる人を惹きつける情報発信を行う。

地域と地域をつなぐ

鳴門の観光・交流のまちづくりを一層発展させるため、四国各地や瀬戸内、近畿・中部圏などとの連携による広域観光交流やドイツ、中国との交流を核とした国際観光交流を進める。

これからの鳴門の観光を一層輝かせるためには、「つなぐ」ことが重要



(3) 観光振興に向けた施策の柱

前述の基本的考え方を踏まえ、「つなぐ」をキーワードとして、鳴門市の観光振興に向けた施策の柱を示すと、以下のとおりである。

地域で取り組む鳴門らしさの発見と育成～鳴門のブランドづくり～

「資源と人をつなぐ」というキーワードを踏まえて、「本物」の鳴門の観光資源の良さを再発見するため、地域みんなで既存資源の新たな見せ方・結び付け方を行うとともに、埋もれている資源にも光を当て、既存資源との結び付けを行うことにより、訪れる人も住む人も惹きつける“100年先も輝き続ける”鳴門ブランドを育む。

鳴門の誇りを守り育てる人づくりと基盤整備～受け入れ態勢の整備～

「人と人をつなぐ」というキーワードにより、訪れる人を市民一人ひとりが迎え入れ、案内することができるようにするため、地域の魅力や良さを知り、歴史文化などを守り育てながら、地域自慢ができる人づくりを行う。また、訪れる人が市内をスムーズに移動することができ、快適で美しい鳴門を満喫できるように交通や環境の基盤整備を進める。

地域ぐるみでの鳴門情報の発信強化

「地域と人をつなぐ」というキーワードをもとに、市民が知っている地域密着の情報を収集するとともに、既存の情報との融合や見せ方の工夫、タイムリーな発信などに心がけ、受信者が「鳴門に来たい」と思わせるような情報発信を地域ぐるみで行う。

鳴門観光交流のさらなる発展・可能性の追求

「地域と地域をつなぐ」というキーワードのもと、四国の玄関口の交流拠点都市として四国各地や瀬戸内、近畿・中部圏などとの広域連携を進めるとともに、ドイツや中国との交流実績を活かして世界に開かれた国際観光交流の推進を図る。

また、最近の映画等の映像撮影への協力、プロスポーツの集客力の活用、コンベンション等の誘致など、鳴門市への集客、人と人との交流創出に効果的な方策を支援、実施していく。

